

令和5年度 県立水海道第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	(1) 教育方針 ①豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持った生徒を育成する学校 ②伝統を継承しながらも柔軟に社会の変化に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる生徒を育成する学校 ③普通科・商業科・家政科が切磋琢磨し合い、それぞれの特長を高めて社会に貢献できる生徒を育成する学校 ④家庭や地域社会等と連携を深め、協働して持続可能な共生社会の実現を目指すとする生徒を育成する学校 (2) 努力目標 ①・生徒の実態に即する適切な学習指導方法を工夫改善し、授業内容の充実を図る。 ・学習に対する自主的な姿勢の育成を図る。 ②・心の教育を充実し、規範意識の向上を推進する。 ・健康・安全教育を推進し、特別活動を通して協調精神を養成する。 ③・適性・能力・興味関心等、個々の生徒の実態に応じた進路指導を展開し、希望進路の実現を目指す。 ・望ましい勤労観や職業観の確立を目指すためキャリア教育を推進する。			
	昨年度の成果と課題 本校は「キャリア重視型進学校」として普通科・商業科・家政科がそれぞれの特色を生かし、学習指導や進路指導、キャリア教育の充実を努めており、生徒の多様な進路希望に応じて一定の成果を収めている。生徒の能力を十分に発揮させ、より高い進路目標を掲げ実現させるためのさらなる学習指導や進路指導の充実が望まれる。基本的な生活習慣の身についた生徒が多いが、服装容儀や交通安全についての指導は今後も継続が必要である。平成28年度に全国大会三冠を果たしたハンドボール部を始めとした部活動も活発である。ホームページや緊急情報メール、また生徒が作成した学校PRビデオによる情報の発信も適切に行われており、開かれた学校づくりにさらに努めていきたい。	重点項目 学力の向上 進路指導の充実 生活指導の充実 特別活動の推進 学校情報の積極的な発信 働き方改革 授業改善	重点目標 ①授業や家庭学習に生徒が主体的に取り組めるよう、具体的な方策を講じる。 ②予習・授業・復習の習慣化により学習時間の確保に努める。 ③個別面談を学校全体の取り組みと位置づけ、他の指導と連動して学習意欲を高める面談指導を行う。 ④生徒の進路意識を高め、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応する。 ⑤積極的な面接指導、的確な進路情報の提供、課外授業の充実を努める。 ⑥進路ガイダンス、進路講演会、インターンシップ等を通してキャリア教育を推進する。 ⑦毎日の登校指導を行い、挨拶・声かけ運動の推進、清掃の徹底を図る。 ⑧豊かな心の育成と体験活動の充実により、規範意識の高揚を図る。 ⑨安全教育、特に交通安全教育を推進し、交通事故の絶無に努める。 ⑩学校行事の企画・運営を生徒中心に行い、自主的、実践的な態度を養う。 ⑪魅力ある部活動を展開し、加入率75%を維持し活気ある学校にする。 ⑫キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。 ⑬ホームページや各種通信等により、教育活動の状況を積極的に発信する。 ⑭学校公開事業等を通して、開かれた学校づくりに努める。 ⑮さくら連絡網を適切に活用し、重要度の高い情報が確実に保護者に伝わるよう努める。 ⑯全職員の連携により業務の分担・効率化を図る。 ⑰部活動においては、練習方法を工夫したり、交代で指導に当たるなど、従事時間の短縮に努める。 ⑱ICTや板書、資料などを効果的に活用し分かりやすい授業に努める。 ⑲机間指導等しながら生徒の学習状況を把握し、適切な助言や支援をすることに努める。 ⑳授業満足度(全教員平均値)を3以上になるように努める。(KPI)	達成状況 B B A B A B A
三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①豊かな人間性を持ち、地域社会の中心として活躍できる人材の育成 ②自律と協和の精神を持ち、他者と協働できる、社会から求められる人材の育成 ③各分野の高度な知識技能を有し、スペシャリストとして牽引できる人材の育成	A	規範意識の向上を推進し、地域の民間企業や進学希望先が必要とする能力の育成を図る。また、高度な専門知識を有し、地域社会から求められる、有為な人材の育成を目指す。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①普通科は、選択科目を多く取り入れ、多様な試験科目に対応し、希望大学への進路実現 ②商業科、家政科は専門性を高め、高度資格を有し、就職から大学進学までの進路希望実現 ③3学科横断的な学習活動とキャリア教育重視により、生徒の多様な進路希望実現	A	ICTを利用した学習指導方法の工夫改善を図るとともに、よりよい進路希望の実現のため、カリキュラムの見直しをする。
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①本校の教育方針や、特色を理解し、本校への入学を強く希望する生徒 ②学習活動に積極的に取り組み、自己実現に向けて努力しようとする生徒 ③地域から愛される本校の生徒として、高い自覚を持ち、規律ある学校生活を送れる生徒 ④部活動、生徒会活動、学校行事等の特別活動、ボランティア活動等に積極的に参加し、他者と協力し、豊かな人格の形成を目指す生徒	B	広報活動を活発化し、本校の教育方針や進路指導についてより深く理解を得る。商業科、家政科では、中学生及び中学校の先生方に専門的学習内容についての理解を図る。また、普通科では、高いレベルの学校に合格できるような仕組みが出来ていることを周知していく必要がある。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	基礎学力の向上と入試に対応できる実力の養成を図る	基礎から応用へと段階的に学力を向上させる授業計画を作成し、学習目標が明確な授業を展開する。	①②	A	学校または各教科・学年のグランドデザインに沿い、ICT利用を推進すると同時に、計画的な授業を展開することにより、学習習慣の確立を図る。
		各教科で計画的に課題提出や小テストを実施し、家庭学習の習慣化と家庭学習時間の伸張を図る。	①②		
国語	基礎学力の定着と向上を図る	基礎学力の定着・向上のために各種小テストを実施、また授業に主体的に取り組めるよう工夫を凝らす。	①	B	小テストやICTを取り入れ積極的に授業を行ってきたが、次年度も継続しさらに効果的な方法を模索し、授業の質の向上を図る。
		ICTや板書、資料などを効果的に活用し、教材への興味関心を抱かせ、知的好奇心を育む。	①		
地歴	基礎学力の向上と世界や日本の歴史的・地理的事象の学習を定着させる	基礎学力の定着と歴史的・地理的事象への関心を高める授業を展開する。	①②	B	資料等を効果的に活用し、社会的事象の歴史的・地理的な見方・考え方を身につけさせる。
		ICTや資料などを効果的に活用し、社会的事象の認識を深めさせる。	①②		
公民	基礎学力の向上と現代の社会について主体的な学習態度を育てる	ICTなどを活用し、基礎学力の定着と社会の諸課題を考える力を養う。	①②	B	ICTを効果的に活用しながら、生徒が主体的に課題を設定し、解決の方策を考える授業展開を心がける。
		政治や経済の諸課題を協動的に考察し、その解決に向けた合意の形成をめざす。	①②		
数学	基礎学力の向上を図る	小テストや課題等を活用し、生徒の家庭学習習慣の定着を図る。	①②	B	ICTを利用し、効率的な授業展開の工夫を行った。アクティブラーニングの要素を増やし、生徒が主体的に学習できるような授業改善を図る。
		教材や授業展開等を工夫し、数学の楽しさや良さを実感させるとともに、表現力の向上に努める。	①②		
理科	基礎学力の向上と定着、科学的な能力の育成を図る	ICTを効果的に利用することで科学の基本的な概念や法則を理解させ、科学的に探究する方法を修得させる。	②⑩	A	カリキュラム的に授業時間に余裕がなく、実験がほぼ実施できていない。ICT機器の活用により基礎科目の授業を充実させ、生徒の探究心をより向上させる。
		実験・観察を通して、科学的な見方や考え方を養う。	①②		
保健体育	基礎体力の維持・向上を図り健康や安全に関する知識を高める	各種の運動を合理的に行う際に適切なアドバイスをするなどし、実践力を見につけさせるとともに自己の体力の高め方を学ばせる。	②	B	自己の健康を管理し、生涯にわたり継続して楽しく運動に親しむ姿勢を身につけさせられるように指導に努める。
		個人や集団における健康の保持増進、将来に向けての基本的な生活習慣の確立をさせる	⑧		
芸術	芸術を愛好する心情と表現活動の向上を図る	生徒一人一人の個性に応じた指導を行い、技術の向上を図る。	①	B	生徒一人一人の個性に応じながら、基本を大切にした上で表現力を伸ばしていくために、多様な授業を展開できるよう務める。
英語	基礎学力の向上を図る	小テストや週末課題を課すなどで、予習・復習を含め、家庭学習の習慣を身につけさせる。	①	A	小テストや週末課題を継続的に実施、フォローアップすることで基礎力の定着を図った。授業でのICTの活用の仕方を工夫し、更に効果的な授業を目指したい。
		ALTや副教材、ICTを有効活用し、授業の工夫を通じてコミュニケーションをとるための基本的な姿勢と学力を身につけさせる。	①		
家庭	生活に必要な知識・技術の習得と問題解決能力の育成を図る	各種検定に取り組み、ICT・板書・資料などを効果的に活用し、知識・技術の向上を図る。	①⑱	A	専門分野における知識・技術の向上に努め、各種検定に取り組ませる。課題研究において地域探究に更に取り組み、地域との連携を強めていきたい。
		家庭クラブや課題研究など、地域との連携活動を通じ自分の考えを広げるとともに問題解決能力の育成に務める。	④⑥		
情報	問題の発見・解決に向けた、情報と情報技術を活用する知識と技術の習得を図る 情報社会に主体的に参画および対応するための資質・能力の育成を図る 業務の効率化とICTコミュニケーション能力の習得を図る	年間授業時間の5分の2以上の実習を行うことにより、情報機器およびアプリケーションソフトウェアの基礎・基本的な知識と技術を習得させ、問題解決に関連したデータの収集・分析ができる力を育成する。	①②⑱	B	・シラバスに基づいた年間指導計画をバランス良く実施できるようにする。 ・Web教材を活用し、主体的な課題解決学習に対応できるようにする。 ・大学入試共通テストへの対応を行う。
		情報の発信者としての法令順守およびモラルやネットを学び、実習時のグループワークを通して、情報社会の一員として主体的に学び合える環境を構築し育成を図る。	①⑱		
		ICTを効果的に活用した業務の効率化を具体的に提示し、PDCAサイクルによる評価・改善を行うため、自己評価、他者評価を実施し、具体的なICTコミュニケーション能力の習得を図る	⑱⑳		
商業	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を重視し、進路実現に向けた職業人としての資質・能力を育成する	魅力ある分かりやすい授業の展開に努め、多様な上級資格取得の向上を図り、商業科に入学して良かったと思える指導体制の構築を図る。	①	B	・シラバスに基づいた、年間指導計画と各種検定試験への対応をバランス良く実施できるようにする。 ・ICTを活用した教材の提示、課題配信等、生徒の主体的な学習をよりサポートする。
		IT学習、習熟度別学習、課外授業等をとおして粘り強く指導するとともに、ICTを効果的に活用した学習を積極的に取り入れ、各科目の理解度を確認しながら、指導効果を深める。	①		
教務	生徒の学力向上をめざした学習指導の実施に努める	授業時間数や授業時間(50分)の確保に努める。	①	B	・新学習指導要領による第3学年の年間指導計画も完成した。タブレットも普及したため、タブレットを用いた授業や課題提出など、GIGAスクール構想における学びの保障を充実させることができた。また働き方改革として、デジタル採点ソフトや、さくら連絡網などの活用を進展させた。次年度は、さらに学校全体で情報機器活用の研修に取り組み、授業に生かし教育の幅を広げたり、校務にも活かしたりし、更なる合理化に取り組む。
		わかる授業を目指して、生徒が主体的に取り組むことができる教科指導の充実・改善を図る。	①		
	学習に対する積極的な姿勢の育成を図る	各教科・学年との連携を図り、家庭学習の習慣化と内容の充実を目指す。	①	B	
		個別面談等で生徒理解を深め、生活や学習活動についての確かなアドバイス及び支援をしていく。	③		
	情報機器の維持、成績処理の援助、情報発信の充実	情報機器の維持及び適切な管理に努める。	①	A	
		校務支援システムの円滑な運用に努める。	③		
生徒の学習や文化・芸術的素養の伸展を支援するため、図書館の充実を図る	さくら連絡網の活用やホームページの更新を通して、情報発信の充実を図る。	⑬⑮	A		
	図書館の環境を整備し、利用しやすい図書館にする。	①④			
生徒支援	基本的な生活習慣を確率させる	図書館と新刊本案内発行などの図書関連行事の活性化を図る。	①⑭	A	
		毎日の登下校指導時に挨拶、声かけを積極的に行い、職員の間で共通理解のもと、遅刻指導や服装指導に当たる。	⑦		
交通安全講話、バイク実技講習等の安全教育を充実させ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める	交通安全講話、バイク実技講習等の安全教育を充実させ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める。	学年間の連携・協力体制を強化し、共通理解・共通認識のもと全職員で服装・頭髪指導に当たる。	⑧	A	服装等は登校時の指導を継続した結果、外部機関の方より評価される等、改善が見られている。今後も継続した指導が必要である。交通安全・薬物・情報モラル等の講習会を実施した結果、今年度も問題行動や交通事故等は低い水準で抑えられている。ただし、自転車・バイク等での事故が見られるので、自転車のヘルメット着用を含め、啓発を行い、事故の減少に努める必要がある。
		マナーアップ教室、薬物乱用防止教室、LHR等を通して規範意識の向上と豊かな人間性の育成を図る。	⑧		
保健安全	生徒の健康の保持増進を図る	交通安全講話、バイク実技講習等の安全教育を充実させ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める。	⑨	B	
		保健調査及び定期健康診断をもとに個々に合わせた保健指導を行う。	①～⑪		
	学習環境の美化及び整備に努める	感染症予防並びに拡大防止に努める。	①～⑪	B	今年度はポストコロナの学校生活へ移行したものの、コロナやインフルエンザ等で出席停止となった生徒数は200名を超えた。次年度も状況に応じた感染症予防と対策は必須である。また、様々な理由で精神的な不安を抱える生徒も増加傾向が続いている。学校全体としてそのケアにあたるシステム作りや取り組み方を構築することが大切である。生徒の健康維持と安全な学校環境整備のために、職員間の情報の共有をさらに進める必要がある。
		教育相談体制を充実させ、より良い生徒支援を行う。	①～⑪		
学習環境の美化及び整備に努める	生徒が安全な学校生活を送るための点検や校内巡視を行う。	①～⑪	B		
	全生徒による大掃除と安全2回のワックス塗りを行う。	①～⑪			
学習環境の美化及び整備に努める	全生徒による大掃除と安全2回のワックス塗りを行う。	校内のゴミの分別と減量化を図る。	①～⑪	B	
		校内のゴミの分別と減量化を図る。	①～⑪		

進路支援	生徒個々の進路希望を実現させるためのさまざまな働きかけや支援をする	自主的・積極的に進路を考え、努力していく意識を高めるための情報を提供する。 面接や課外授業などの充実を図る。	④⑤⑥ ④⑤	B B	今年度は各学年の進路行事（バス見学含む）もすべて実施し、生徒の興味関心を引き出す進路支援につながっている。就職に関しては、希望者が例年より少なく、地元の人材状況も良好だったため、生徒の希望に応じたきめ細やかな支援ができ、結果にも結びついた。公務員は希望者3名から合格者は出なかったが、その後の進路変更はスムーズであった。進学では、年内入試の、特に総合型選抜受験者が増加し、生徒の自主的な選択の動きが強まった。国立大学は文系で1名合格となったが、希望者の多い理系からの合格者を出すことができなかった。3年間を通じた指導の重要性を再認識するとともに、特に普通科全体と個々に対する指導の充実が求められる。
	3年間を通じての体系的な進路指導体制の構築を図る	生徒の進路意識の推移を分析・検討し、課題を明確化する。 生徒個々に応じた進路実現の構築のため就職指導と進学指導を分け、生徒へのきめ細かい指導を目指す。	④ ⑤⑥	B B	
	生徒が自主的に職業や就職先を選択できるよう、必要な能力・態度を育成する	インターンシップ等を積極的に実施し、職業意識の育成等にかかる指導の充実を図る。 家庭と連携し、職業観・勤労観の形成、社会的なマナーやコミュニケーション能力の育成を図る。	⑤⑥⑦⑮ ⑤⑥⑦⑮	B B	
	学習企画	多様な進路実現に向け、将来に生かせる探究学習の充実を図る。 大学公開講座の参加推進と地域連携を図る。	④⑤⑥ ⑤⑥⑦⑮	B B	
渉外	PTA行事への保護者の参加を積極的に呼びかけ、家庭との連携を密にする。	PTA役員会・PTA総会・支部総会・学年PTA・PTA関東大会及び全国大会への積極的な参加を呼びかけながら、開かれた学校づくりに努める。	①～⑩	B B	PTA総会の出席率が低いので、内容の検討が必要である。
特別活動	文化部・運動部及びホームルーム活動の活性化に努める	部室や練習場の清掃、挨拶の励行を通し、生徒の意識改革を促す。	⑦⑩⑪	A	コロナが第5類に移行したことで、学校行事も次第に元の形に戻つつあることが実感できた。御城祭では家族のみの一般公開から通常の開催に向けて、体育祭や野球応援なども持続可能な形態で実施できるように反省点を洗い出して改善していく。生徒会や行事の実行委員に主体性があり、引き続きHRと連携を密にして学校の活性化を目指す。
		様々な大会へ積極的に参加して、活気ある部活動を目指す。	⑪	A	
		生徒会行事等を通して自主的な活動によりHRの連帯感を高める。	⑩	A	
		生徒会とHRの連携を密にしてLHRの意見を反映し学校の活性化を目指す。 キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。	⑩ ⑫	A B	
第1学年	基本的な生活習慣の確立を目指す	時間や行動の自己管理能力向上を目指し、遅刻を減らし、校則を守らせる指導をする。 挨拶を始めとするコミュニケーション能力を高め、より良い人間関係を築く力を育む。	⑦⑧ ⑦⑧	B B	基本的な生活習慣の確立や挨拶の徹底を継続する。基礎学力については、ICTを活用した授業展開の工夫や、課題・小テストなどに取り組ませるなどによって学力を向上させることができた。豊かな心については生徒がそれぞれ人間関係を意識し、コミュニケーションをとりながら行動できていた。しかし、学校生活に不安を抱えている生徒も見られるので、保護者との連絡を密にして対応にあたりたい。
	基礎学力の向上を目指す	個人面談や進路学習を重ねて進路を明確化することで、授業や自宅学習に意欲的に取り組ませる。 ICTを活用した授業を工夫し、各学科の特性を活かせるように設定されている課題にもきちんと取り組ませる。	①③④ ①⑤	B A	
	豊かな心の育成を図る	部活動等の教科外活動に積極的に参加させ、他者との協調を図りながら自ら考え動く意識を高める。 教室の環境や生徒間の人間関係に配慮し、落ち着いて学校生活ができる環境を整える。	⑩⑪ ⑩	A A	
	生活指導の徹底と心豊かな人材の育成	服装頭髪指導、遅刻指導、清掃指導を徹底し、落ち着いて学校生活が送れる環境を整える。 学校行事や部活動を通して、自ら考え動くことができる人材となるように指導する。	⑦⑧ ⑩⑪	A A	
第2学年	進路希望を明確化し、その実現への努力を促す進路指導	規範意識を養い、人のかかわり方を学びながら集団生活の中で自身の役割を果たせるよう支援する。	⑧⑩	A	学年全体を通して、基本的な生活習慣が定着し、落ち着いた雰囲気での1年間を送ることができた。修学旅行や体育祭を通して、集団生活における自身の役割を考え活動することができた。普通科の探究について、今年度の成果を来年度にどう継続させるかが課題である。学習指導においては、共通テストでの「情報I」の対応や理数専門2科目を必要とする生徒への対応が課題である。今後も教員間で連携し、進路実現の支援にあたっていきたい。
		進路別バス見学会や進路ガイダンスを通して、適切な進路選択に必要な進路学習をさせる。 生徒との個別面談を密に行うことで生徒理解を深め個々の生徒がライフプランを真剣に考える支援をする。	④⑥ ④⑤	A A	
	授業を中心に据えた学習指導	学年通信や保護者面談資料などを通して、進路情報を保護者に適宜提供する。	⑬⑭	A	
		授業への積極的な取り組みを促し、さらに、授業を活かすための家庭学習の定着を図る。 学年と授業担当者が連携して、学習の遅れている生徒に細やかな指導をする。 平常課外や長期休業中の課外を実施して、授業の学習内容を深く理解できる場を提供する。	①③ ①③ ①⑤	B B A	
第3学年	学力の向上を図り、個々の生徒の進路実現を目指す	家政・商業・普通科それぞれの学科の特性に合わせた指導を行い学力の向上を図る。 各種のガイダンスや個別面談等を実施し、個々の適性能力に応じた進路希望の実現を目指す。	② ④⑤	A A	進路指導については、面接指導や小論文指導など計画的に実施することができた。志望理由が不明瞭な生徒がいるので、早めの対策が必要である。総合型選抜や指定校推薦で私立大受験を希望する生徒が多く、国立大学受験を目指す意識付けがもっと必要であった。生徒指導に関しては、進路が決定した後に欠席、遅刻が増えたため、服装等の指導とあわせて学年全体で行っていく必要がある。
	生徒指導の徹底及び基本的な生活習慣の充実を目指す	保護者との連携を密にし、基本的な習慣の充実を図る。 社会のルール遵守し、モラルの向上に努める。	⑦⑧ ⑦⑨	A B	
		生徒支援部との連携を図り、日々の生活を通してよりよい高校生活の実現を目指す。	⑦⑧	B	

※ 評価規準： A：十分達成できている B：達成できている C：不十分である D：できていない